

教育の理念

社会学科は、尊厳と公正を重んじ、現代社会の諸現象に対して観察眼を有し、問題発見と課題設定、調査と分析の能力を体得し、幅広い教養と専門的知識、技術を自らの社会的実践に活かせる、現代社会の多様性と変化に対応できる人材を育成する。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会学科社会学専攻は、専門的な講義科目を受講することによって、社会学の体系的なリテラシーを習得していること、演習・実習科目を履修することによって、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得していること、さらには卒業論文・演習レポートを執筆することによって、自らの問題意識に基づき、的確に問題設定を行い、その解答を導き出すとともに、社会に対してそれを発信できる表現力を身につけていること、以上によって所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士 (社会学) の学位を授与する。

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できるための社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な科目を修めた学生に対して卒業を認定し、学士 (社会福祉学) を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性]

建学の理念を理解し、自らを高める自己形成と社会学・社会福祉学の学問領域とを密接に関連付けることのできる「駒澤人」としてのアイデンティティを備えている

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性]

幅広い教養と洞察力をもとに、専門教育を通じて豊かな感性と人権意識、現代社会の多様性を理解し尊重する態度を身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、判断力、表現力]

社会学と社会福祉学における専門的知識・技術を体得するとともに、社会的・福祉的視点を活用した情報分析能力を活かし、主体的に問題設定を行い、それを解決する力や表現する力を体得している。

(DP4) コミュニケーション能力 [技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性]

他者と主体的に協働するコミュニケーション能力、自らの考えを論理的かつ明確に伝えるプレゼンテーション能力および文章力を身につけている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性]

体系的に習得した専門知識や技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、社会に発信・貢献できる能力を身につけている。また福祉専門職を目指す学生については、それぞれの福祉現場で必要となる知識や支援技術を十分に体得し、実践力の高い応用力を身につけ、福祉現場に主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

		学修評価の観点												
		知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている														
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		◎					◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	◎	◎		○			◎	◎	◎		◎	
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	○			◎	○	○	◎		
	DP4	コミュニケーション能力			◎	○	○		◎	○	○	◎	○	○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	◎	◎		◎	○	○	◎	○	◎

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学専攻、社会福祉学専攻ともに、ディプロマ・ポリシーに掲げた 5 つの能力の習得を目標に、基礎から応用・発展までの科目を学年ごとに配置している。各専攻とも 3 つの軸に沿ってカリキュラムを体系化している。

社会学専攻の 3 つの軸は以下のとおりである。

- ① 人間と社会を把握する力を育成する（DP1、DP2）
- ② 社会の実態を調査する力を育成する（DP3）
- ③ 問題を発見し、解決する力を育成する（DP4 と DP5）。

社会福祉学専攻の 3 つの軸は以下のとおりである。

- ①福祉分野の幅広い知識を修得し、人間社会と福祉についての素養と深い洞察力を育成する。（DP1、DP2）
- ②福祉分野の諸問題に関して主体的に問題設定を行い、それを調査・分析して問題解決策を考察できる力を育成する。（DP3）
- ③福祉分野の専門技術教育を通じ、全学生が福祉的コミュニケーション能力を体得するとともに、福祉専門職志向の学生には社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育を通じ、高い実践能力を有したプロフェッショナル教育を実施する。（DP4、DP5）

なお、教育の方法としてはアクティブ・ラーニングや e ラーニングの活用、少人数専門演習・実習による手厚い指導などが特徴である。詳細については、各専攻の記述を参照されたい。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1～2			◎			社会的・職業的自立、実社会への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育						◎		状況に応じて「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育						◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎				多面的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1～2	1～2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、他言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1～2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2-4	1	○	◎	◎	◎	◎	専門分野を学ぶために必要な基礎的な知識と方法を身につける。
	講義科目	2～4	2～4	○	◎	○	○	◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	2～4	2～4	◎	◎	◎	◎	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、もしくは専門分野の講義との相乗効果のために、各種社会的実践現場における実習を行う。
	演習科目	4	3～4	◎	◎	◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員およびメンバーと密なコミュニケーションを取り、議論や発表、演習レポートの作成を行う。
	卒業論文	8	4	○	◎	◎	◎	◎	学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会科学では、尊厳と公正を重んじ、幅広い教養と専門的知識、技術を自らの社会的実践に活かせる、現代社会の多様性と変化に対応できる人材を育成するために、社会に対して強い関心を持ち、積極的に社会に貢献したいと考える学生を、多面的総合的な視点によって選抜を行う。

1. 社会科学が求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育内容を幅広く修得し、「自ら学ぶ力」を身につけていること。社会学専攻は特に「国語総合」、「英語」の基礎的な学力を求める。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学の建学の理念を理解し、社会や福祉の専門領域に関心を持ち、社会科学で学んだ知識・経験を社会に出てから活用したいという意欲をもっていること。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現代社会に対して強い問題意識を持ち、社会をより良くしていきたいという願いを持っていること。また、現代社会の諸現象、問題について、様々な情報に基づき、自ら考察を行い、その結果をわかりやすく説明する基本的な能力を身につけていること。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な文化・価値観の相違を認識し、社会倫理・福祉倫理を理解し、他者を尊重し、主体的に協働していく意欲を身につけていること。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				本学の教育理念を理解し、現代社会に強い関心があり、他者を尊重し、主体的に協働していく意欲のある学生で、高等学校の教育内容を幅広く習得し、基礎的な「自ら学ぶ力」を身につけている学生を求めている。 判断基準 ①国語、②英語、③政治・経済、世界史、日本史、地理、数学のうちの1科目、の3科目について学力試験を実施し、総合的に判定している。
	T方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で幅広く基礎学力を修得し、将来社会的、福祉的視点を生かして社会に貢献することをめざす学生を求めている。 判断基準 大学入試センター試験の教科のうち、国語、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目選択）、選択科目（地理歴史、公民、数学、理科から1科目選択）の成績によって入学者を決定している。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、社会学もしくは社会福祉学を学びたいという強い意欲と明確な目的意識を持ち、高等学校の諸科目において優秀な成績を収めた学生を求めている。 判断基準 出願書類の評価に加え、小論文では国内外の社会問題について、単に課題に対する知識量を測るのではなく、提示された資料や問題の基礎的理解力、分析力、および論理的思考能力を判定し、面接口試では学ぶ意欲、学習と社会的実践の経験、コミュニケーション能力などを判定し入学者を決定している。
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	特性評価型	書類審査	◎	○			(社会学専攻のみ実施)本学の教育理念を理解し、社会学を学びたいという意欲に満ち、社会的な活動・研究において、秀でた実績を挙げている学生を求めている。 判断基準 書類審査では出願書類について精査する。面接口試はプレゼンテーション形式で行い、学ぶ意欲、学習と社会的実践の経験、コミュニケーション能力などを判定し入学者を決定している。
面接口試		○	◎	◎	◎		

特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	◎	○			<p>本学の教育理念を理解し、指定されたスポーツ競技で高い能力を発揮できると同時に、本学科での学びの意欲を強く持つ学生を求めている。</p> <p>判断基準 競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、小論文・面接試験を課し、基礎的学力(国語力や問題分析能力)と学びの意欲を判定している。</p>
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入試	出願書類	○	○			<p>社会人としての経験を活かしながら学び、社会に貢献する主体的意欲を持つ学生を求めている。</p> <p>判断基準 小論文、英語により専門科目を学ぶ上での基礎学力を判定するとともに、面接試験によりコミュニケーション力をはじめとした社会人基礎力と学ぶ意欲について判定している。</p>
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		教科	◎				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入試	出願書類	○	○			<p>外国における生活・学習経験から、日本社会の現状を相対的視点でとらえ、社会に貢献することをめざす学生を求めている。</p> <p>判断基準 日本語(国語)のほか、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語のうちから1科目を課して基礎学力を判定している。同時に、面接試験により社会学科で学ぶ意欲について判定している。</p>
		筆記	◎				
		教科	◎				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生入試	出願書類	○	○			<p>日本における社会学、社会福祉の実際を学び、国籍を超えて社会学、社会福祉学の専門知識・技術を活用することをめざす学生を求めている。</p> <p>判断基準 小論文によって日本の高校教育に該当する知識と社会に関する基礎知識を有するかどうかを判定するとともに、面接試験によって学ぶ意欲と適性を判定している。</p>
		日本留学試験(成績)	○				
		筆記	◎		◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	編入学試験	出願書類	○	○			<p>これまでの学びで体得してきた知識と技術を応用し、社会学、社会福祉学の関連分野で活躍することを希望する学生を求めている。</p> <p>判断基準 社会学・社会福祉学に関する基礎知識、英語(筆記)を課し、基礎学力と同時に専門を学ぶ上で必要となる基礎知識について判定するとともに、面接試験によって学びの意欲と適性を判定している。</p>
		筆記	◎		◎	◎	
		教科	◎				
		面接口試	○	◎	◎	◎	

教育の理念

社会学専攻は、現代社会の諸問題に対して観察眼を有し、問題発見と課題設定の能力を体得し、幅広い教養と社会学の専門的知識、技術を社会的実践に活かせる人材を育成する。

複雑で多様な現代社会への理解を深めるために、幅広い講義科目とフィールドワークに基づき現実社会を体験する少人数制の演習、実習科目によって、「幅広く応用のきく知識と技能を身につける教育」「懇切丁寧な教育」を行い、グローバル社会、共生社会に対応できる高い人間力と問題解決能力を有した人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

上記のような人材育成のために、社会学の専門的な講義科目を履修することによって、社会学の体系的なリテラシーを習得していること、演習・実習科目を履修することによって、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得していること、さらには卒業論文・卒業レポートを執筆することによって、自らの問題意識に基づき、的確な問題設定を行い、その解答を導き出すとともに、社会に対して発信できる表現力を身につけていること、以上によって所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士 (社会学) の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性]

必修科目である「仏教と人間」を履修することにより、仏教の教えと禅の精神についての理解を深め、自分を高める自己形成と社会学という学問領域を密接に関連付けることができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを身に着けていること。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性]

多様な教養科目、専門科目を履修することにより、豊かな感性と鋭い洞察力、幅広い教養を身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができること

(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、判断力、表現力]

社会学におけるカリキュラムを十分に習得することにより、データ処理に関する情報リテラシーを体得し、また演習科目を履修することにより、主体的な問題意識と問題解決能力を体得していること

(DP4) コミュニケーション能力 [技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性]

他者と主体的に協働する能力と自らの考えを論理的かつ明確に伝えるプレゼンテーション能力と文章力を身につけていること

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性]

体系的に習得した社会学における専門知識や社会調査にかかわる技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、社会に発信・貢献できる能力を身につけていること

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎		○			◎	◎	◎		◎		
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	○			○	○	○				
	DP4	コミュニケーション能力			○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		○	◎	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの能力の習得を目標に、社会学専攻の科目の系統は、1年次に履修する全学共通科目の入門・導入科目等を基礎とした上で、育成目標となる力によって大きく3つに分類され、それぞれにおいて基礎から応用・発展までの科目を学年ごとに配置している。教育課程の体系的性は、履修系統図とナンバリングによって示される。

①人間と社会を把握する力を育成する（DP1とDP2）【CP1】

②社会の実態を調査する力を育成する（DP3）【CP2】

③問題を発見し、解決する力を育成する（DP4とDP5）【CP3】

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 「人間と社会を把握する力を育成する」科目には、社会学の基礎を学ぶ講義と演習科目（社会学概論、社会学の歴史、社会学の理論など）、社会学の応用・発展としての各論に相当する講義と演習科目、さらに社会学の隣接領域（人類学、心理学、社会福祉学、社会政策論など）に関する科目が含まれる。
- 2) 「社会の実態を調査する力を育成する」科目は、社会調査や統計、情報処理などの講義と演習・実習科目である。
- 3) 「問題を発見し、解決する力を育成する」科目は、社会参加実習や社会調査実習などのフィールドワークの実践、専門演習（ゼミ活動としてのフィールドワークの実践と卒業論文や演習レポートの執筆）が相当する。

これら1～3の科目を基礎から応用まで学ぶことにより、社会学の体系的なリテラシーを習得し、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得することが可能となる。また、一般財団法人社会調査協会による「社会調査士」資格の取得も可能となる。

2. 教育方法

- 1) 演習・実習科目においては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行っており、講義科目においても、リアクション・ペーパーなどの活用により、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れて授業を行っている。
- 2) 社会学専門演習については、事前に募集説明会やゼミ公開を実施し、担当教員による選抜を行っている。1つのゼミあたりの上限定員を設けて特定のゼミに学生が集中しないように配慮し、少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行っている。
- 3) 社会学専門演習Ⅲにおいては、自らの関心に基づいた研究テーマにより、四年間の集大成としての卒業論文もしくは演習レポートの執筆を必須としている。なお、卒業論文もしくは演習レポートの指導における専門性をより高めるために、専門演習ⅠbからⅡ、ⅡからⅢへは持ち上がりを基本としている。

3. 評価

卒業認定・学位授業の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生の入学時から卒業後の成長を見据えた教育を行うために、全学的に取り組む機関レベルの評価・測定（全学の該当部分を参照）と同時に、社会学専攻の教育課程レベルと科目レベルでも学習成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・入学前教育の成果の点検（対象者のみ） ・新入学生外オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・進級率 ・社会調査士取得率 ・非常勤講師との教育懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文提出率 ・優秀卒業論文賞
科目レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生セミナーと社会学基礎演習の連携による基礎的技術定着の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目におけるリアクション・ペーパー ・GPA・成績分布状況 ・学生による授業アンケート 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人育 成基 礎プ ログ ラム 全学 共通 科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1-2			◎			社会的・職業的自立、実社会への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育						○		状況に応じて「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育						○		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2-4	1-4		◎				多面的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1-2	1-2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、他言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1-2	1-4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専門 教育 科目	社会学基礎演習（導入教育科目）	2-4	1	○				◎	専門分野で学ぶために必要な基礎的な知識と方法を身につける。
	各種専門講義科目	2-4	1-4		◎	◎		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	社会参加実習、社会調査実習などの実習科目	2-4	1-4	◎	◎	◎	◎	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、もしくは専門分野の講義との相乗効果のために、フィールドワークや社会調査を行う。
	各種社会調査演習、講読演習、社会学専門演習などの演習科目	4	1-4	○	◎	◎	◎	◎	少人数クラスで担当教員およびメンバーと密なコミュニケーションを取り、議論や発表、演習レポートの執筆を行う。
	卒業論文	8	4	○	◎	◎	◎	◎	学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科社会学専攻では、現代社会に対して強い関心を持ち、社会に積極的に貢献したいと考える学生を求めている。一般入試では、①国語、②英語、③世界史、日本史、地理、政治・経済、数学のうち1科目、の3科目について学力試験を実施し、総合的に評価し、入学の受け入れを判断している。推薦入試では、提示された資料や問題に対する、あるいは身近な社会現象や社会問題に対する基礎的理解力、分析力、論理的思考力について、社会学を学ぼうとする意欲や社会に対する関心・洞察力について、そして高校時代の社会的な活動などを総合的に評価し、入学の受け入れを判断している。

1. 社会学科社会学専攻の求める学生像

社会学科社会学専攻で求める学生像は以下の通りである。

- (AP1) 高等学校の基礎的な学力を身につけていること。特に「国語総合」、「英語」の基礎的な学力を身につけていること。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、社会学科社会学専攻で学んだ知識・経験を社会に出てから活用したいという意欲をもっていること。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現代社会に強い関心があり、社会をより良くしていきたいという願いを持っており、広く社会に目を向け、幅広い知識を養おうとする態度を身につけていること。そして、現代社会における諸現象、問題についての様々な情報に基づき、自ら考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明する基本的な能力を身につけていること。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な文化・価値観の相違を認識し、他者とのかかわりあいの中で他者を尊重し、主体的に協働できるコミュニケーション能力と意欲を身につけていること。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				本学の教育理念を理解し、現代社会に強い関心があり、他者を尊重し、主体的に協働していく意欲のある学生で、高等学校の教育内容を幅広く習得し、基礎的な「自ら学ぶ力」を身につけている学生を求めている。 判断基準 ①国語、②英語、③政治・経済、世界史、日本史、地理、数学のうち1科目、の3科目について学力試験を実施し、総合的に判定している。
	T方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で幅広く基礎学力を修得し、将来社会に貢献することをめざす学生を求めている。 判断基準 大学入試センター試験の教科のうち、国語、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目選択）、選択科目（地理歴史、公民、数学、理科から1科目選択）の成績によって入学者を決定している。

自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			<p>本学の教育理念を理解し、社会学を学びたいという強い意欲と明確な目的意識を持ち、高等学校の諸科目において優秀な成績を収めた学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>出願書類の評価に加え、小論文では国内外の社会問題について、単に課題に対する知識量を測るのではなく、提示された資料や問題の基礎的理解力、分析力、および論理的思考能力を判定する。また、面接口試はグループ討論形式で行い、学ぶ意欲、学習と社会的実践の経験、コミュニケーション能力などを判定し入学者を決定している。</p>
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	特性評価型	書類審査	◎	○			
		面接口試	○	◎	◎	◎	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	◎	○			<p>本学の教育理念を理解し、指定されたスポーツ競技で高い能力を発揮できると同時に、本専攻での学びの意欲を強く持つ学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、小論文・面接試験を課し、基礎的学力(国語力や問題分析能力)と学びの意欲を判定している。</p>
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入試	出願書類	○	○			<p>社会人としての経験を活かしながら学び、社会に貢献する主体的意欲を持つ学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>小論文、英語により専門科目を学ぶ上での基礎学力を判定するとともに、面接試験によりコミュニケーション力をはじめとした社会人基礎力と学ぶ意欲について判定している。</p>
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		教科	◎				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入試	出願書類	○	○			<p>外国における生活・学習経験から、日本社会の現状を相対的視点でとらえ、社会に貢献することをめざす学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>日本語(国語)のほか、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語のうちから1科目を課して基礎学力を判定している。同時に、面接試験により社会学科で学ぶ意欲について判定している。</p>
		筆記	◎				
		教科	◎				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生入試	出願書類	○	○			<p>日本において社会学を学ぶ意欲があり、国籍を超えて社会学の専門知識・技術を活用することをめざす学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>小論文によって日本の高校教育に該当する知識と社会に関する基礎知識を有するかどうかを判定するとともに、面接試験によって学ぶ意欲と適性を判定している。</p>
		日本留学試験(成績)	○				
		筆記	◎		◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
編入学試験	出願書類	○	○			<p>これまでの学びで体得してきた知識と技術を応用し、社会学の関連分野で活躍することを希望する学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>社会学に関する基礎知識、英語(筆記)を課し、基礎学力と同時に専門を学ぶ上で必要となる基礎知識について判定するとともに、面接試験によって学びの意欲と適性を判定している。</p>	
	筆記	◎		◎	◎		
	教科	◎					
	面接口試	○	◎	◎	◎		

教育の理念

社会学科社会福祉学専攻は、建学の理念のもと、幅広い教養と福祉の専門知識・技術、ならびに平和・人権・社会正義を基本とする倫理観を体得し、「温かい心と冷めた頭」をもって人間社会の発展に貢献できる人材を育成する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できる社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な科目を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

建学の理念を理解し、自己形成と学問研究を通じて社会で活躍できる「駒澤人」としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

幅広い教養と洞察力をもとに、専門教育を通じて人権意識と現代社会の多様性を理解し尊重する態度を身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

社会福祉学における専門的知識・技術を体得するとともに、主体的な問題意識に基づいて問題設定を行い、それを解決する力や表現力を体得できている。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

情報分析能力、及び福祉的視点を活用したコミュニケーション能力を有している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

専門教育を通じて身につけた知識・技術を活用し福祉的視点から広く一般社会に貢献できる。また福祉専門職を目指す学生については、それぞれの福祉現場で必要となる知識や支援技術を十分に体得し、実践力の高い応用力を身につけ、福祉現場に主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている		学修評価の観点												
		知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		◎					◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	◎	◎							◎		◎	
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	○		◎				◎		
	DP4	コミュニケーション能力			◎			◎			○	○		○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎		◎			○	○	◎		◎

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの能力の習得を目標に、社会福祉学の基礎知識の獲得を目指すための理論教育、社会福祉実践の基礎となる方法論教育、及び社会福祉の援助技術の獲得に向けた演習・実習科目（学外の配属実習を含む）、主体的な課題発見能力と問題解決能力を獲得させるための少人数による演習科目とゼミ論・卒業論文の執筆、将来の職業選択を踏まえたキャリア関連科目等を体系的に配置している。特に、卒業後の希望進路に応じた履修モデル（福祉専門職系、福祉教養系その他）を基に、演習を中心とした段階的かつ系統だった指導カリキュラムを通じて、学生の進路希望や適性に応じたキャリア指導を展開する。

- ①福祉分野の幅広い知識を修得し、人間社会と福祉についての素養と深い洞察力を持った人物を育成する。（DP1、DP2）
- ②福祉分野の諸問題に関して主体的に問題設定を行い、それを調査・分析して問題解決策を考察できる人物を育成する。（DP3）
- ③福祉分野の専門技術教育を通じ、全学生が福祉的コミュニケーション能力を体得するとともに、福祉専門職志向の学生には社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育を通じ、高い実践能力を有したプロフェッショナル教育を実施する。（DP4、DP5）

1. 教育内容

- 1) 福祉分野の幅広い知識を修得する科目として、入門的科目（社会福祉原論、医学一般、心理学（福祉）、社会学（福祉）、介護概論、介護技術など）と応用的科目（児童福祉論、障害者福祉論、老人福祉論、社会保障論、公的扶助論、地域福祉論、社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴなど）を配置している。
- 2) 福祉分野の調査・分析力を修得する科目として、情報処理論、社会調査の基礎、社会福祉基礎演習、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱなどを配置している。
- 3) キャリアに関する専門科目を配置し、福祉専門職志向の学生は社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉実習A・Bを含む）を通じて専門職としての技能を体得する。また福祉を教養として学びたい学生は、キャリア発達演習を通じて自らのキャリアをデザインしていく。

2. 教育方法

- 1) 講義科目においては、e ラーニングシステムやリアクション・ペーパーの積極的な活用を図るとともに、学生による授業アンケートの結果をふまえた授業改善などによって学習効果を高める工夫を常に心がけている。演習・実習科目においては、各種のアクティブ・ラーニングの技法を導入し、学生との双方向の授業を展開して学生の主体的な学びの環境を整えている。
- 2) 必修科目として設置されている演習科目（ヒューマンサービス演習（1年次）・社会福祉基礎演習（2年次）・社会福祉専門演習Ⅰ（3年次）・社会福祉専門演習Ⅱ（4年次））では、小集団でのフィールドワークや体験型学習による問題意識の形成、文献研究等による研究の進展、プレゼンテーションツールを活用した多様な研究発表と議論を学年進行に応じて段階的に実施することで学生の能動的学習を促進させている。特に、専門演習では学生の2年次までの学習成果を踏まえて、各自の興味・関心に沿った研究テーマをもとに主体的にゼミを選択し、少人数による専門性の高い研究指導の機会を確保している。
- 3) 専門実習（社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉実習A・B）は、学生の適性に応じて個別調整と指導を行っている。またキャリア発達演習では、さまざまなキャリア開発教材を用いて社会人基礎力を十分に身につけられるようにしている。

3. 評価

社会福祉学専攻では、卒業認定・学位授業の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づいて、専攻学生の入学時から卒業後の成長を見据えた教育を行うために、全学的に取り組む機関レベルの評価・測定（全学の該当部分を参照）と同時に、社会学専攻の教育課程レベルと科目レベルでも学習成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程 レベル (社会福祉学 専攻)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入試結果 ・ 新生オリエンテーションによる把握 ・ 英語能力テスト ・ アセスメントテスト ・ 新生基礎調査 ・ 入学前教育取組状況（対象者のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPA・成績分布状況 ・ 修得単位数 ・ 学生による授業アンケート ・ 英語能力テスト ・ アセスメントテスト ・ 進級率（年次） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業論文提出率 ・ 社会福祉士、精神保健福祉士国家試験合格率 ・ 社会福祉士養成校協会、精神保健福祉士養成校協会による成績優秀者表彰
科目レベル (個々の科目)		<ul style="list-style-type: none"> ・ GPA・成績分布状況 ・ 学生による授業アンケート ・ 課題への取り組み状況 (リアクション・ペーパー含む) 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人育 成基 礎プ ログ ラム 全学 共通 科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1-2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育								課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育								日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2-4	1-4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1-2	1-2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1-2	1-4	◎					スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専門 教育 科目	導入教育科目	4	1	○	◎				専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2-4	1-4		◎				専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	2-4	2-4				◎	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、福祉実習を行う。
	演習科目	4	2-4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4	4			◎		◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科社会福祉学専攻では、高い福祉的素養を有し、福祉社会の形成に寄与できる人材を養成するため、多面的総合的な視点による入学選抜を行う。

1. 社会学科社会福祉学専攻が求める学生像

- (AP1) 高等学校段階までの教育内容を幅広く修得していること。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 建学の理念を理解するとともに、現在の福祉社会に関する関心を持っていること。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現在の福祉社会に関する問題意識に基づき、主体的・積極的に学びを深めるとともに、学習成果を社会に還元する意欲を持っていること。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な文化・価値観の違いや福祉倫理を理解し、他者と協働していく意欲を持っていること。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				高い福祉的素養を有し、福祉社会の形成に寄与できる人材を養成するため、社会福祉の諸問題に対して強い関心を持ち、積極的に社会に貢献したいと考える学生を求めている。 判断基準
	T方式	教科	◎				①国語、②英語、③政治・経済、世界史、日本史、地理、数学のうちの1科目、の3科目について学力試験を実施し、総合的に判定する。
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で幅広く基礎学力を修得し、将来社会福祉の視点を生かして社会貢献することをめざす学生を求めている。 判断基準 大学入試センター試験の教科のうち、国語(200点満点)、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目選択・200点満点)、選択科目(地理歴史、公民、数学、理科から1科目選択・100点満点)の成績によって入学者を決定している。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、①社会福祉の理論を幅広く理解する基礎的学力を有している②自ら問題意識をもって主体的に学びを深めることができる③ボランティア活動などの社会的活動に意欲的に熱意をもって取り組める④将来、社会福祉の専門的知識技術を得て、国内外での活躍を希望するような学生を求めている。 判断基準 ・福祉に関する国内外の社会問題について、単に課題に対する知識量を測るのではなく、提示された資料や問題の基礎的理解力、分析力、および論理的思考能力を有していること。 ・社会福祉学を学ぼうとする意欲を有していること。 ・社会福祉の諸問題の理解力、ボランティア活動等の社会福祉に関する実践経験を有していること。
		小論文		○	◎		
		面接口試	○	○	○	○	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、指定されたスポーツ競技で高い能力を発揮できると同時に、本専攻での学びの意欲を強く持つ学生を求めている。 判断基準 競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、小論文・面接試験を課し、基礎的学力(国語力や問題分析能力)と学びの意欲を判定している。
		小論文		○	◎		
		面接口試	○	○	○	◎	
	社会人特別入試	出願書類	○	○			社会人としての経験を活かしながら、福祉社会の形成に貢献する主体的意欲を持つ学生を求めている。 判断基準 小論文、英語により福祉を学ぶ上での基礎学力を判定するとともに、面接試験によりコミュニケーション力をはじめとした社会人基礎力と社会福祉学を学ぶ意欲について判定している。
		小論文		○	◎		
		教科	◎				
		面接口試	○	○	◎	◎	
	帰国生特別入試	出願書類	○	○			外国における生活・学習経験から、日本の福祉社会の現状を客観的視点でとらえ、日本社会に貢献することをめざす学生を求めている。 判断基準 日本語(国語)のほか、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語のうちから1科目を課して基礎学力を判定している。同時に、面接試験により社会福祉学を学ぶ意欲について判定している。
		筆記		○	◎		
		教科	◎				
面接口試		○	○	○	◎		

外国人留学生入試	出願書類	○	○			<p>日本における社会福祉の実際を学び、母国において、または日本において福祉の専門知識・技術を活用することをめざす学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>小論文によって日本の高校教育に該当する知識と福祉に関する基礎知識を有するかどうかを判定するとともに、面接試験によって学びの意欲と適性を判定している。</p>
	日本留学試験(成績)	◎				
	筆記	○		◎		
	面接口試	○	◎	◎	◎	
編入学試験	出願書類	○	○			<p>これまで学び体得してきた知識と技術を応用し、社会福祉分野で活躍することを希望する学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>社会福祉学に関する基礎知識、英語(筆記)を課し、基礎学力と同時に福祉を専門的に学ぶ上で必要となる基礎知識について判定するとともに、面接試験によって学びの意欲と適性を判定している。</p>
	筆記		○	◎		
	教科	◎				
	面接口試	○	○	◎	◎	